

鉄鋼

7,539億円 (前期比 +5.4%)



- **鋼材販売数量**：国内の自動車向けを中心に需要は堅調に推移したものの、加古川製鉄所の生産設備トラブルや自然災害の影響などから、前期比減
- **鋼材販売価格**：主原料価格の上昇などの影響を受け、前期を上回る
- **鍛造鋼品売上高**：製品構成の変化により、前期比減
- **チタン製品売上高**：航空機分野での拡販等により、前期比増
- **経常利益**：上工程集約による収益改善策が進捗するも、設備トラブルや自然災害による販売数量減少、物流費の増加などにより、前期比125億円減益の47億円

溶接

839億円 (前期比 +4.2%)



- **溶接材料**：東アジアを中心とした造船向けなどの需要が低迷したものの、海外における自動車向け需要の増加などから、前期比増
- **溶接システム**：国内建築鉄骨向け需要が引き続き堅調に推移し、前期並
- **経常利益**：原材料のコストアップなどにより、前期比12億円減益の36億円

アルミ・銅

3,590億円 (前期比 +2.7%)



- **アルミ圧延品**：自動車向け需要が増加したものの、飲料用缶材向け需要の減少などから、前期比減
- **銅圧延品販売数量**：タイ生産拠点の設備トラブル解消による銅管の販売数量回復などから、前期比増
- **経常損益**：アルミ圧延品の販売数量減少や、エネルギーコスト上昇、品質不適切行為の影響などから、前期比133億円悪化の15億円の損失

機械

1,714億円 (前期比 +6.3%)



- **受注高**：石油精製分野の圧縮機需要の回復基調や、アジア・中東における石油化学分野の需要の増加などから、前期比13.6%増の1,717億円
- **当期末受注残高**：1,566億円
- **経常利益**：既受注案件の採算性悪化などにより、前期比11億円減益の12億円

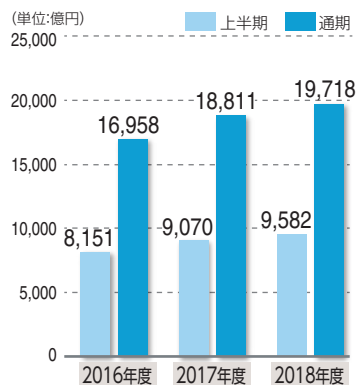
当期の概況

鋼材の販売数量は、国内における自動車向けを中心に需要は堅調に推移したものの、加古川製鉄所における生産設備の一過性のトラブルや自然災害の影響などから、前期を下回りました。アルミ圧延品の販売数量は、自動車向けの需要が増加した一方で、飲料用缶材向けの需要が減少したことなどから、前期を下回りました。銅圧延品の販売数量は、タイ生産拠点での設備トラブル解消による銅管の販売数量の回復などから、前期を上回りました。油圧ショベルの販売台数は、欧州、中国を中心に需要が堅調に推移したことから、前期を上回りました。

業績ハイライト (連結)

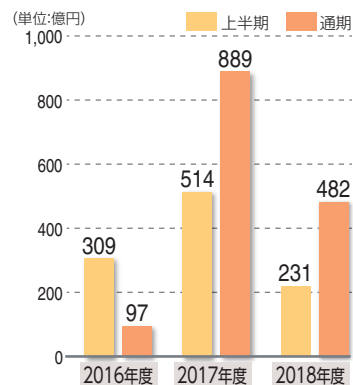
売上高

19,718 億円
(前期比 +4.8%)



営業利益

482 億円
(前期比 △45.7%)



事業別売上高 (2018年度)

その他
420億円 (2%)

電力
761億円 (4%)

建設機械
3,860億円 (19%)

エンジニアリング
1,517億円 (8%)

機械
1,714億円 (8%)

